

ぼくは最新のスマートフォンを手に入れられるか

豊川小・6 三宅 明人

一年前の夏、ぼくは古いスマートフォンを買ってもらったことができた。しかし、友達が持っているものよりも型が古く、かた身のせまい思いをしていた。どうしたら新しい機種を買ってもらえるのかと母に聞くと、

「体操で全国大会に行けたらいいよ。」
と言われた。もともと体操には力を入れていたのだが、さらに努力の日々が始まった。

まずは、西日本ジュニアの大会に出たい。西日本ジュニアで三十位までに入ることができれば、全日本ジュニアに出ることができると。年に二つある全国大会の一つだ。種目は六種類で、床、跳馬、鞍馬、鉄棒、吊り輪、平行棒の全てが規定演技である。それもかなり難しい。通っているクラブ内で出場した選手もいないため、情報を聞ける仲間もいなかった。

三月の大会で規定演技に近い演技構成ができていたので、「西日本ジュニアにも出ていいよ。けれども、通過は難しいと思う。」と、コーチに何度も言われた。言われるたびにくやしい気持ちになった。しかし、規定演技の完成が間に合わない種目があった。鉄棒と床だ。鉄棒の「飛びツイ」という、手を一しゅん離す技と、床は三連続の転回が難しかった。出発日まで何度も練習した。飛びツイは、クラブの先生でもできるかできないかというくらい難しい。

そんなに難しい技なのに、ぼくは飛びツイの練習をさせてしまった。そのせいで、西日本ジュニアまでに飛びツイを成功させることができなかつたんだと思う。何度も何度も母に、

「飛びツイをやらなくていいの。」

と言われていたのに、やらなかった。そして、大会の一週間前にもっと練習をしていけばよかつたと後かいはした。でもそれはもうおそかつた。

西日本ジュニアの会場は佐賀県で、新幹線で向かつた。リラックスできるようにと、母が買ってくれたイヤホンで勝負曲を何度も聞いた。

佐賀県に着いて二日目、前日練習があつたので他のクラブの選手と顔を合わせた。愛知県の強い選手もいた。声をかけてみると、ぼくのことを知ってくれている人もいてうれしくなつた。ぼくができていない技をやっている選手もいれば、やっていない選手もいて、少し気持ちが落ち着いた。

そして、本番の日、いつもならきん張で朝ご飯を食べることができないが、今回は少し食えることができた。気分は不思議と落ち着いていた。

大会は吊り輪からのスタートだつた。倒立の姿勢が少し乱れて九二〇〇点だつた。悪くはない。しかし、もっと強くなってよい点数をねらいたい。他の大会で、吊り輪で優勝したこともあるので、もっと上を目指さなくてはいけないと思つた。

次は跳馬。二回跳んでその平均が得点になる。得意な技だけど、着地が一步出てしまい、九・一五〇点。点数が出なかつたのは、飛びよりも伸びなかつたからだから、これも時間をかけて練習をしな

くてはいけない。

三種目は平行棒。蹴上がりの足が高く上がらなかったが、倒立もしつかりと静止し着地もぴったりで九・四〇〇点。得意な種目ではないので、うれしかった。半分の種目が終わり、残りは三種目。いけるんじゃないかと少し希望が見えた。

鉄棒は他の選手たちの落下が続いた。ぼくができない技ができても落下してしまう選手もいた。落下は大きな減点になってしまう。こうなるとあせってしまうのだが、ぼくは静かに演技を終えることができた。得点は八・九五〇点。思っていたよりも高い点数に驚いたが、とてもうれしかった。あと、〇・〇五〇点で、九点台だったので、ちよつとおまけしてよと思ってしまった。

五種目は床だ。なかなかきれいにできるようにならなかった三連続転回が、練習のときよりもきれいにできて、自分の中で最高のものができたと思った。最後のとても難しい技もきれいに着地ができて、晴れ晴れとした気持ちでお辞儀をした。得点は、九・〇五〇点もあった。

最後は鞍馬。旋回十周は、落ち着いてやれば何の問題もないはずだと思った。何回も気がぬけかけたが、落下したら全日本ジュニアに出られないぞ、気を引きしめろと言いついて聞かせて臨んだ。そして無事に演技が終わり、ぼくの出番は全て終わった。点数は九・一〇〇点だった。ここの高さを意識して練習したらもっと点数が出るはずだから、練習不足だと感じた。

あと数人の演技が終わるのを待つなか、結果の速報をコーチがスマホで見してくれた。

「明人、通過できるかも。」

とびっくりした顔で教えてくれた。六種目の平均が九・〇〇〇点は超えていたので、もしかしたら：という思いはあった。結果二十七位で通過することができた。母がガッツポーズをしたので、ぼくもガッツポーズを返した。

「応えんありがとうございます。」

と大きな声でベンチに向かってお礼を言った。このときのぼくの気持ちは「安心した」の一言につきる。社長や他のコーチが

「おめでとう。」

と言ってくれて、全日本ジュニアに本当にいけるんだなとじよじよに実感がわいてきた。

帰りの新幹線の中で、スマートフォンを検さくした。最新機種はどれも高価だ。そんな中でぼくはスマートフォンの最新機種を選んだ。

これからも体操を全力でがんばっていく。勉強もそれなりにがんばらないと。東海大会は八位で、なんと全国大会に出られることになった。十一月にあるからがんばりたい。